令和7年 第5回

東京都教育委員会定例会議事録

日 時：令和7年3月27日（木）午前10時

場 所：教育委員会室

令和7年3月27日

東京都教育委員会第5回定例会

〈議 題〉

1 議 案

第28号議案

「東京都教員会における障害者活躍推進計画（第2期）」について

第29号議案

「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」の策定について

第30号議案

令和7年度東京都教科用図書選定審議会への諮問事項について

第31号議案

令和7年度東京都教科用図書選定審議会委員の任命又は委嘱について

第32号議案

東京都教育職員免許状再授与審査会委員の委嘱について

2 報 告 事 項

(1) 「いじめ総合対策【第3次】（案）」について

(2) 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」の改訂について

教育長	坂本雅彦
委員	秋山千枝子
委員	北村友人
委員	宮原京子
委員	高橋純
委員	萩原智子（オンライン）

事務局（説明員）

教育長（再掲）	坂本雅彦
教育監	瀧沢佳宏
総務部長	岩野恵子
指導部長	山田道人
人事部長	吉村美貴子
特別支援教育推進担当部長	中西正樹
指導推進担当部長	市川茂
（書記） 総務部教育政策課長	小川謙二

開 会 ・ 点 呼 ・ 取 材 ・ 傍 聴

【教育長】 ただいまから、令和7年第5回定例会を開会します。

本日、萩原委員はオンラインで出席をされます。

本日は、教育新聞社ほか4社からの取材と、6名の傍聴の申込みがありました。また、教育新聞社ほか4社から、冒頭のカメラ撮影の申込みがありました。許可してもよろしいでしょうか。—— 〈異議なし〉 ——では、許可します。入室してください。

日程以外の発言

【教育長】 議事に入ります前に申し上げます。

東京都教育委員会において、一度注意してもなお議事を妨害する場合には、東京都教育委員会傍聴人規則に基づき退場を命じます。特に誓約書を守ることなく、退場命令を受けた者に対しては、法的措置も含めて、厳正に対処します。

なお、拍手等により可否を表明することや、入退室する際に大声で騒ぐ、速やかに入退室しないと行った行為も退場命令の対象となります。

議事録署名人

【教育長】 本日の議事録の署名人は、高橋委員にお願いします。

前々回の議事録

【教育長】 2月20日の令和7年第3回定例会議事録については、既に御覧いただいたと思いますので、よろしければ承認いただきたいと思います。よろしいですか。—— 〈異議なし〉 ——では、2月20日の令和7年第3回定例会議事録については承認いただきました。

3月6日の令和7年第4回定例会議事録を配布していますので、御覧いただき、次

回の定例会にて承認いただきたいと思ひます。

次に、非公開の決定です。本日の教育委員会の議題のうち、第31号議案及び第32号議案につきましては、人事等に関する案件ですので、非公開としたいと思ひますが、よろしいですか。―― 〈異議なし〉 ――では、ただいまの件につきましては、そのように取り扱ひます。

議 案

第28号議案

「東京都教育委員会における障害者活躍推進計画（第2期）」について

【教育長】 それでは、第28号議案「「東京都教育委員会における障害者活躍推進計画（第2期）」について」の説明を、総務部長からお願いします。

【総務部長】 東京都教育委員会における障害者活躍推進計画（第2期）について説明させていただきます。

本計画につきましては、先月2月4日の定例会におきまして、障害者活躍推進計画（第2期）の案を報告させていただいております。案の公表後、職員団体へのヒアリングを実施するとともに、内容の精査等を行ってきたところです。今回、計画案からの内容の変更はありませんが、改めて計画について要点を絞り説明させていただきます。

それでは、資料を御覧ください。

まず、第2の部分、東京都教育委員会の障害者雇用の現状と目標の部分です。第2期計画の目標につきましては、資料下段にお示ししています。障害者雇用率は、法定雇用率の達成を目標としてまいります。令和8年7月には法定雇用率は2.9%となる予定となっています。また、第2期計画で新たに設定します職場満足度につきましては、昨年12月に全教職員を対象に実施したアンケートの調査結果を踏まえ、現在の満足度76.1%を上回る80%以上を目標としてまいります。

続きまして、第3 障害者活躍に向けた取組です。大きく職場環境の整備と、障害のある教職員の採用・育成等について取り組んでまいります。職場環境の整備につき

ましては、相談体制の整備としまして、職場における障害に関する理解促進・啓発のため、職場向けリーフレットの配布や動画等の配信をしております。また、障害のある教職員の意向に基づき、障害特性等に関するコミュニケーションシートを新たに導入し、職場での障害に対する理解を促進しております。

次に、障害のある教職員の採用・育成の部分です。こちらは会計年度任用職員の採用拡大に向けまして、都立学校や関係部署とも連携し、募集・広報の強化に取り組むとともに、採用期間の短縮等により、応募者の負担軽減を図るなど、採用選考の改善を図っております。

また、これと併せ、障害者の働く場を増やすため、都立学校等への学校業務支援の促進をしております。具体的には、障害者がグループで都立学校の現場を巡回し、学校業務を行うほか、データ入力等の作業を学校から請け負うなど、学校業務を支援する新たな取組を実施しております。また、より多くの障害者を受け入れるために、柔軟な働き方に向けた取組としまして、チャレンジ雇用において短時間勤務を取り入れております。

3枚目以降の資料につきましては、計画作成に当たり実施しました教職員アンケートの結果の抜粋、障害者団体ヒアリングにおける主な意見、また最後のページには職員団体へのヒアリングにおける意見等を新たに加えています。本計画につきましては、本日の教育委員会で御審議、御決定をいただいた後、ホームページで公表するとともに、都立学校等へ周知を図っております。また、計画期間内は毎年度実施状況を点検し、点検結果を踏まえ、必要な対策を随時実施しております。

説明は以上です。御審議のほどよろしく申し上げます。

【教育長】 ただいまの説明に対して、何か御質問・御意見はありませんか。

宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 御説明ありがとうございます。なかなか教員の方の割合が多いということで、障害者雇用は難しい状況なのかなと理解しました。御説明いただきました幾つかの取組については、既にやっていて、これは効果があるかなと思っているものがあるのか、ほとんどが初めてのものなのか、そこが分からなかったので教えてください。

【総務部長】 今、説明をさせていただいたのは、次期の計画から新たに組み込んでいく部分です。特に、都立学校への巡回による業務の支援の部分は今回新たな取組で、一部の学校からは受注してもらってこちらでやっている部分もあるのですが、まだ一部の学校に限られているので、それを広く都立の学校で請け負っていきたいところがありますので、新たな取組としてやってまいりたいと考えています。

【宮原委員】 これら書いてあることは全て新たな取組ということで、かなり工夫して取組をされていることがよく分かりました。これまで取り組んだことでも、もし効果が十分にあるということであれば、そちらも含めまして積極的に取組を続けていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

北村委員、お願いします。

【北村委員】 御説明どうもありがとうございます。どうしても教員に関してはなかなか免許を持っている方が少ないということで、難しいところがあるなどは思うのですが、このアンケートの結果を見ても、どちらともいえない、そう思わないが比較的多く出ていますので、こういったアンケートをすると普通は満足・やや満足が多いのに対して、これははっきりとそうともいえない、どちらともいえない、そう思わないがしっかり出ているので、この辺りの分析をしっかりしていただいて、これが事務局職員として回答された方と、学校事務職員、教員で異なる傾向があるのか、少しブレークダウンして、どのようなニーズがあるのかを是非分析した上で、より適切な支援ができるといいのかなと思っています。それをお願いしたいというのと、考え方が本当に難しいところもあると思うのですが、一つはこちらの御意見にもあるように、障害の有無にかかわらず、今、学校現場における働き方改革等を進めていく中で、障害の特性を踏まえた上で、戦力としてこの教職員の方々がしっかりと自分の能力を発揮しやすい環境をつくるのが非常に大事だと思います。ただ、同時にやはり障害特性によっては、なかなかそうもいかない方もいらっしゃると思うので、そこに配慮は欠かせないと思いますが、何か特別扱いしてというよりは、多分、今回のこれも別にそのような意図ではないと思うのですが、戦力という言い方がいいのかどうか分かりませんが、しっかりと能力を発揮していただいて、充実したお仕事を

していただける現場をつくっていただきたいので、これはお願いです。

【総務部長】 アンケートの中で、障害のある職員にとって働きやすい職場だと思いますかというところや、障害者雇用に関する理解が進んでいますかというところで、どちらともいえないという意見がかなり多くなっています。やはり、都立の高校などの現場を見ると、まだまだ障害者が入っている現場が少ないので、このような回答になっているのかなと分析しています。なので、やはり都立学校、学校現場にもう少し障害者雇用を促進させていくことを、今回は第2期の中で取り組んでいきたいと思っています。また、今般、働き方改革の中で、やはり教員ではなくてもできる業務がかなり切り出されていますので、そういった中で、障害者の方でもできる業務を切り出して、学校の中に入れていただくことを進めていきたいと考えています。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 取組をありがとうございます。今、部長が言われたように、学校・教師が担う業務に係る3分類を進めていただいて、障害者ができるところを雇用していただければと思います。それと、障害への理解に関しては、次の特別支援教育推進計画にも同じことが言えると思いますが、インクルージョンを進めることによって理解が広がるのではないかと思います。副籍等を使って、一定程度学校現場に障害のある方がいる、また高等部の実習を学校現場で行う、そしてその延長線上に雇用ができるといいのではないかと思います。よろしくお願いします。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

高橋委員、お願いします。

【高橋委員】 私もほかの委員の先生と同様のコメントになってしまうかもしれませんが、やはりここにある団体ヒアリングに出てきている校務の仕事の一部の切り出しや、短時間勤務は非常に重要な指摘かなと思っています。障害のある方でも働きやすい職場は、つまり例えば産休や育休など様々な事情で、なかなかフルタイムで職場復帰しにくい方にとっても働きやすい職場かなと思っています。やはり、これは巡回したり、受注のような話がかかれていますけれども、これを電話と紙でやっていたら、やはり非常に難しく、このようなものをウェブで受け付けたり、仕事のり

ストが見えて、私はこの日にこのような協力ができますとなっていると、もっと参加しやすいかと思います。これは多分、小学校で言ったら教科担任制などで非常に人のオペレーションが難しくなっていると思うので、そのような誰がどれぐらい学校で働いてくださるのかを、簡単に応募できて、簡単に把握、管理、お支払までできる仕組みがあるといいかなと思いました。ここの障害者の話とは少しずれるかもしれませんが、インクルージョンという言葉が出ましたので、トータルで見て感じました。

以上です。

【総務部長】 受注の仕組みや学校とのやりとりは、なるべく学校が取り組みやすいように、負担にならないように考えていきたいと思います。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

ほかに御質問・御意見がありませんようですので、本件につきまして原案のとおり決定してよろしいでしょうか。——〈異議なし〉——では、本件につきましては原案のとおり承認をいただきました。

第29号議案

「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」の策定について

【教育長】 それでは、第29号議案「「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」の策定について」の説明を、特別支援教育推進担当部長からお願いします。

【特別支援教育推進担当部長】 第29号議案、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」の策定について説明します。

本計画は、昨年10月24日の教育委員会におきまして、素案の報告をさせていただいたものです。素案公表後に実施したパブリックコメントでは、子供たちを含む多くの都民の皆様から御意見をお寄せいただきました。こうした御意見や、教育委員の皆様から頂いた御意見等を踏まえまして、第三次実施計画の案を取りまとめました。本日は主に素案に追加した内容などを中心に、概要版により御説明をさせていただきます。

それでは、概要版の1ページを御覧願います。

まず、第1部の東京都特別支援教育推進計画（第二期）の基本的な考え方です。平成29年に公表した特別支援教育推進計画（第二期）は、令和9年度までの11年の長期計画となっており、その中で、具体的な取組内容を明らかにするための実施計画を三次に分けて策定しています。本計画の基本理念の実現に向け、資料下部の四つの方向性に沿って施策を推進しているところです。

2ページを御覧ください。素案と同様、上段には近年の国や都の動向を、下段には四つの方向性に係る主な事業を記載していますが、具体的な取組内容につきましては3ページ以降で御説明をさせていただきます。

3ページを御覧ください。左側中段の施設整備計画につきましては、前回の教育委員会におきまして報告のとおり、知的障害のある児童・生徒の増加に対応するとともに、教育環境の充実を図るため、表に記載のとおり1校の新設、1校の増築、2校の緊急的な増築、5校の改築を実施する予定です。

続いてその下、視覚障害特別支援学校における歩行訓練士の活用を御覧ください。こちらは、都立盲学校における教員の専門的指導力向上に向け、歩行訓練士の資格を持つ外部人材の活用を図っていく取組です。右側、下から二つ目に記載しています、聴覚障害特別支援学校における放課後の居場所づくりでは、都立ろう学校の幼稚部及び小学部の3年生までの幼児・児童につきまして、送迎に係る保護者の負担を減らすため、幼児・児童が放課後等に学校内で過ごす専用の場所を確保するモデル事業を来年度から新たに開始します。

続いて、4ページを御覧願います。上段右側のセンター的機能を活用した小・中学校教員の専門性向上におきましては、担当教員を対象とした研修の実施や、センター的機能専門員による区市町村立小・中学校への巡回等の取組を通じて、センター的機能を活用した小・中学校等における特別支援教育の推進・充実を図ってまいります。

続いて、5ページを御覧ください。左上、特別支援学校と都立高校等の協働的な取組におきましては、隣接・近接する都立特別支援学校と都立高校の各5校で、障害のある生徒等と障害のない生徒が日常的に共に学ぶ環境の整備に向けた協働的な取組を来年度から実施します。

続いて、6ページを御覧ください。右側上から2段目の特別支援学校と放課後等デイサービス事業所との連携としまして、校外におきましても児童・生徒が安全に安心して過ごせるよう、特別支援学校と放課後等デイサービス事業所との連携について新たに記載をしました。その下の特別支援学校等卒業後の学びの充実におきましては、特別支援学校等を卒業した生徒が大学生などと交流し、共に学ぶことができる新たな学びの場をつくってまいります。

ただいま説明申し上げた計画案の全文は、資料2として入れています。

続いて、子供版の資料を御覧ください。子供の目線に立った施策を推進するために、子供にも分かりやすい資料を作成しました。

1ページは表紙となっておりまして、2ページ、3ページは計画の概要となっております。2ページの上段におきましては、全ての学校に通う子供たちが一人一人必要な支援を受けながら、自分に合った授業を受けられるよう取組を充実させていくことを記載させていただいております。4ページは、子供たちの対話による意見の聞き取りの状況について、実際の様子分かる写真を入れながら紹介をさせていただくページとなっております。5ページ以降につきましては、子供たちから寄せられた声やイラストを交えて紹介をしています。

最後に、素案へのパブリックコメントへの結果を取りまとめましたので、概略を説明します。パブリックコメントの結果についての1ページを御覧ください。前回の教育委員会にて報告のとおり、中段右側3の個別の意見数に記載のとおり、計427件の御意見を頂戴しました。2ページ目以降では、頂戴した御意見と、それに対する都教育委員会の考え方を整理しまして記載をさせていただきました。こちらの資料につきましては、計画公表と合わせましてホームページ上にて公開する予定です。

最後になりますが、本計画につきましては、決定を頂いた後、ホームページでの発信や冊子の配布等で広く周知を図ってまいります。その上で、今後、本計画に基づきまして、区市町村教育委員会や学校等と連携しながら、各施策を着実に進めてまいります。

説明は以上です。御審議のほどよろしく申し上げます。

【教育長】 ただいまの説明に対して、何か御質問・御意見はありませんか。

北村委員、お願いします。

【北村委員】 このように包括的に特別支援教育の充実に向けた計画を作成していただき、またパブリックコメント等を通して幅広く意見を聞いてくださったことは本当に良かったなと思っています。特に、当事者というか、子供たち自身の声もしっかり反映したものになっているのではないかなと感じています。いろいろなところが大事なものだとは思いますが、一つ都として今後、全ての先生方が特別支援教育に関わる、関わらないにかかわらず、是非、特別支援の経験を積んで理解を深めて、先ほどの正にインクルージョン、学校の中で実現していく中で、多様な人たちが共に生活することが当たり前だという環境を学校の中に実現していく上では、やはり先生はどうしても学校という閉じられた空間に生きがちなため、その中でより多様な背景を持つ人たちと共生することについて、実体験として理解を深めていただく経験を、是非より積極的に、ここでも人材交流などで明示していただいていますけれども、是非積極的に進めていただきたいなと強く願っています。よろしくお願いします。

【特別支援教育推進担当部長】 委員がおっしゃるとおり、教員の専門性向上によって理解が進むことはとても大事なことでして、この点につきましては、本文の、今お手元にはありませんが、就学相談の機能の充実といったところでも、推進室による支援ということで、今年度から中学校の教員向けの講習会を実施しているなど、教員の専門性向上を図っています。その辺りもしっかり取り組んでいながら、引き続き向上を図ってまいりたいと考えています。ありがとうございました。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

高橋委員、お願いします。

【高橋委員】 国の動向や都の動向、それでパブコメも含めて大変丁寧に積み上げた良い計画ではないかと感じています。この計画の修正ではなくて、少しコメントをさせていただくと、ワンパターンで申し訳ないのですが、このデジタルの教材の部分です。最近見ていると、指導方法と教材が一体化した雰囲気が生まれているなと感じています。例えば、生成AIなどを使って自分で分かりやすく書き直してください、表にしてください、図にしてくださいと、何度もインタラクティブな教科書のように、非常に自分で分かりやすい形に変えていくなど、例えばこの間あったのです

けれども、アイドルの売れていくプロセスに例えると長篠の戦いをどう捉えますかなど、聞いてみると結構面白い、これは何とかの選抜と同じ戦い方です、ガラケーとスマホとの違いを説明してくださいと言うと武田軍はガラケーですなど、やはりうまく例えて、自分にとって興味のあるものに教材を作り替えたりすることがすごくできてきています。

そうなってくると、障害のある方でも自分の特性に合わせたものに、あえてこちらが準備しなくても、自分で作り替えていく方が、どちらかというところ今後学校を卒業した後も自ら学び続けるという意味で、可能性はあるかなと思います。教材をたくさん御準備することも非常に重要だと思うのですが、それが例えば生成AIなどで作り替えがしやすい形態で作るなど、むしろそのようなものを使いながら自分なりに理解を深めていく勉強の仕方も、今後十分あり得るかなと感じています。すごく期待しています。よろしくをお願いします。

【特別支援教育推進担当部長】 御意見を頂きましてありがとうございました。委員のおっしゃっている、学習者用のデジタル教材の開発についてページを割いていますが、ここでは文科省の調査研究教科書については書かせていただいています。今、委員がおっしゃった、更に進んで、自ら学んで作り替えていくといった視点も、非常に大事な御示唆だなと思いますので、その辺りも念頭に置きながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 計画をありがとうございました。これまでの特別支援教育の計画実施によって、特別支援学校の教員の配置数や支援内容など、手厚い指導が社会に周知されて、特別支援学校を希望する方々が増えているのではないかと思います。丁寧な教育指導を、このセンター的機能を活用して、小・中学校に伝えていただけることを願っています。4ページにセンター的機能専門員による区市町村への巡回等と書いてあります。このセンター的機能の専門員がとても大事な鍵だと思いますので、併任などではなく、専門員を置いていただきたいと思っています。

それから、今回新たに特別支援学校と放課後等デイサービスの事業所との連携をき

ちんと明確に記載していただいたことは大変重要です。また、インクルーシブの学びのプログラムの実施について、一緒に生活する、一緒にいるという記載がありましたけれども、是非、交流だけではなくて、生活を共にするところも主として取り組んでいただきたいと思います。

それともう一つ、児童・生徒さんとの対話による意見の聞き取りの4ページのところで、特別支援学校の児童・生徒に聞き取りをしていただいたことはとても有意義だったと思います。インクルージョンが進むと、地域の小・中学校にも対象のお子さんたちがいるようになり、今後はその小・中学校にいる児童・生徒の声も聞いていただければと思います。

以上です。

【特別支援教育推進担当部長】 御意見ありがとうございました。今回の計画では、インクルーシブな教育について、二次実施計画ではいろいろばらばらとちりばめていたものを、まとめてお示ししており、具体的には19ページと「はじめに」といったところで、総括的なインクルーシブに対する認識を示させていただきました。

委員に御指摘、御意見を頂いたことを含めまして、今後も引き続き取り組んでまいりたいと思っています。

【教育長】 萩原委員、お願いします。

【萩原委員】 御説明ありがとうございました。推進計画は本当に分かりやすく、特に子供に向けたものに関してすごく分かりやすくまとめていただいてありがとうございます。1点質問なのですが、この子供に対しての説明の冊子ですが、視覚障害の方に向けて音声ガイダンスや点字のものはあるのですか。それとも、自分たちで音声読み上げ機能で読んでいく形でしょうか。教えていただければと思います。

【特別支援教育推進担当部長】 御質問ありがとうございます。音声認識機能を使ってお読みいただきますか、音声認識のQRコードを印刷させていただいておりますので、そこから音声認識を読み取って、具体的に音声が出てくるということでお読みいただければと考えています。

【教育長】 宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 おまとめいただいてありがとうございます。取組全体については賛

同します。1点だけ、3ページの施設整備計画のところ、新設と増築と緊急的増築、恐らく非常に急いで、令和8年ですから、再来年度までに何とかということと、改築が並んでいます、時代も4、5年たちますと状況も変わっていくと思いますので、こちらの計画については社会のニーズに合わせて柔軟に対応できるように、見直しもかけていただきたいというのがコメントです。よろしく申し上げます。

【特別支援教育推進担当部長】 御意見ありがとうございました。実際、工事を行うに当たりましては、これまでもそうなのですけれども、なかなか予定どおりに進まないこともあるのが事実です。今おっしゃったような、社会のニーズを踏まえて、今回は施設整備計画とあわせて新たな施設整備の手法による取組も考えていますので、それも組み併せながら、きちんとニーズに合致した施設整備を進めてまいりたいと考えています。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

ほかに御質問・御意見がありませんようですので、本件につきまして原案のとおり決定してよろしいでしょうか。——〈異議なし〉——では、本件につきましては原案のとおり承認をいただきました。

第30号議案

令和7年度東京都教科用図書選定審議会への諮問事項について

【教育長】 それでは、第30号議案「令和7年度東京都教科用図書選定審議会への諮問事項について」の説明を、指導部長からお願いします。

【指導部長】 第30号議案資料を御覧ください。

教科用図書選定審議会は、小・中学校等の義務教育諸学校で使用する教科書の採択に関して、法令に基づき都道府県の教育委員会に毎年度設置しなければならないものです。

来年度設置する審議会に、2に記載しました3点を諮問したいと考えています。

(1) 教科書の採択方針について (2) 教科書調査研究資料について (3) 令和8年度に都立小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）及び特別支援学校の小学部・中

学部で使用する教科書の採択についてです。これらはおおむね例年どおりとなっています。

諮問理由についてですが、都教育委員会が都立の義務教育諸学校において使用する教科書の採択や、区市町村教育委員会や国・私立学校の校長が行う教科書採択について指導、助言又は援助を行う際に、あらかじめ審議会の意見を聞くことになっているためです。

これらの諮問事項につきましては、本日の教育委員会で御決定いただいた上で、4月に審議会を設置し諮問をします。なお、審議会での審議を経て頂いた答申については、答申を受けた後に教育委員会に報告させていただきます。

説明は以上です。御審議のほどよろしく申し上げます。

【教育長】 ただいまの説明に対して、何か御質問・御意見はありませんか。

御質問・御意見がないようですので、本件につきまして原案のとおり決定してよろしいでしょうか。―〈異議なし〉―では、本件につきましては原案のとおり承認をいただきました。

報 告

(1) 「いじめ総合対策【第3次】(案)」について

【教育長】 それでは、報告事項(1)「「いじめ総合対策【第3次】(案)」について」の説明を、指導推進担当部長、お願いします。

【指導推進担当部長】 いじめ総合対策【第3次】について報告をします。資料の(1)を御覧ください。

まず、この1ページ目の資料の中央の部分、目的を御覧いただきたいと思います。このいじめ総合対策ですが、都内公立学校のいじめ防止等の取組の一層の推進を図る目的で作成しているものです。

資料下段に経緯を示しましたので、こちらを御覧ください。現在使用していますいじめ総合対策【第2次・一部改訂】は、令和3年2月に策定したものです。その後、

第5期いじめ問題対策委員会による答申等がありました。こうした経緯を踏まえまして、本年7月から使用しますいじめ総合対策【第3次】をこのたび策定することになりました。

続いて、2ページを御覧ください。策定の方向性ですけれども、基本的には現行の【第2次・一部改訂】を受け継ぐ形を取っています。今回の策定の背景には、上段の方に1、2、3と示しましたけれども、まず国による生徒指導提要の改訂、それから第5期いじめ問題対策委員会の答申、それから3の国によるいじめの重大事態の調査に関するガイドラインの改訂の3点がありまして、これらを踏まえまして修正を加えたものです。教職員用は、上巻と下巻の2巻構成となっていて、これは現行のものと同じですが、今回は紙の冊子で配布ではなく、デジタルブックとして作成し配布する予定です。また、資料右下にお示したとおり、新たに子供版を作成しています。この子供版は、発達の段階に応じまして3種類作成しています。

それでは、上巻・下巻・子供版それぞれのポイントについて説明をさせていただきたいと思います。

資料の3ページを御覧いただきたいと思います。まず、こちらは上巻についてです。今回の策定の背景にあります、国による生徒指導提要の改訂を踏まえまして、生徒指導の4層構造といじめ対応の重層的支援構造、これは右にページで示しているところですが、こうした内容を解説するページを新たに設けています。各学校の教職員がこうしたページを読みまして、生徒指導のポイントを理解した上でいじめ問題へ対応することが重要と考えています。

続いて、資料の4ページです。今回の策定の背景にある、いじめ問題対策委員会の答申を踏まえまして、いじめ防止等に係る方策や具体的な取組を掲載しています。こちらは一つの例ですけれども、例えば昨年度から実施しています高校生いじめ防止協議会の内容を説明するページなどを新たに設けています。

続きまして、資料の5ページです。今回の策定の背景にある、国によるいじめ重大事態の調査に関するガイドラインの改訂を踏まえまして、いじめの重大事態の対応に関する課題について、関係ページには根拠法令等を基に対応方法を説明しています。

続きまして、資料6ページです。

こちらは下巻の内容です。下巻は、各学校が授業等で児童・生徒を対象に実施する学習プログラム等を掲載したものです。改訂された国の生徒指導提要においても、いじめの未然防止に向けて自己指導能力の育成が重要とされています。この自己指導能力とは、児童・生徒が自発的・自立的かつ他者の主体性を尊重しながら自らの行動を決断し実行する力と国は定めているのですが、こうしたものの育成が重要とされています。こうしたことから、今回この下巻の学習プログラムの各事例においては、自己指導能力の育成に向けた生徒指導の実践上の視点をそれぞれ記載しています。

続いて、資料の7ページにまいります。今回、先ほど案内したとおり、初めて子供版を作成しています。この子供版ですけれども、児童・生徒のいじめ問題やいじめ防止について学び、考えることのできる内容としまして、一人1台端末等で活用できるようにする予定です。初級編・中級編・上級編の3種類ありますけれども、それぞれおおまかに全体の構成は同じとしています。

まず、左下の画像ですけれども、こちらは初級編の一部です。このページでは、どのようなものがいじめに該当するのか、事例を通して子供たちが学べるようにしています。それから、資料中央と右側の画像はそれぞれ中級編と上級編の一部です。中級編、それから上級編では、いじめの行為が犯罪行為につながることにについても解説していきまして、さらに、その中の上級編では法や条例等の根拠も示しています。このように、発達の段階に合わせていじめも犯罪行為に該当する可能性があることを伝えてまいります。なお、それぞれのページ数は初級編が11ページ、中級編が14ページ、上級編が16ページの構成となっています。

最後に、8ページを御覧いただきたいと思います。今後のスケジュールです。本日の夕刻から4月の下旬までの間、パブリックコメントを実施しまして、都民の皆様から広く御意見を募集したいと考えています。また、4月上旬から都内公立学校の子供たちから、子供版についての意見を聞きたいと考えています。こうした流れの中で、パブリックコメントや子供たちの意見、それから教育委員の皆様からの御意見等を参考にしまして、更に修正を加え、6月の教育委員会において御審議・御決定を頂きたいと考えているところです。なお、決定後にはデジタルブックとしまして、都内公立学校の全ての教員にデータを配布するほか、都内公立学校に通う全ての児童・生徒に

子供版のデータを配布したいと考えています。また、東京都教育委員会のウェブページにも情報を掲載させていただく予定です。

説明は以上です。どうぞよろしく申し上げます。

【教育長】 ただいまの説明に対して、何か御質問・御意見はありませんか。

北村委員、お願いします。

【北村委員】 御説明ありがとうございます。いじめは残念なことに、人が一緒に生活する中でどうしても起こってしまう側面があるかと思imasるので、もちろんいじめをゼロにすることを目指すわけですけれども、それ以上に大切なことが、いじめが起こることをどう防ぐか、また起こった時にどう対応するかになってくるかと思imas。その意味で、こうして先生方がいじめが起こる原因の背景にあることの理解を深めたり、起こった際にどのように対処するのかをきちんと整理してくださったこと、また僕が理解したところでは、電子ブックの形式になるかと思imasるので、先生方も参照しやすい形で作ってくださるのかなと思imasるので、頭からお尻まで順番に読んでいかななくても、大切なところをピンポイントで分かりやすく読める形にさせていただけるのかなと理解しました。

一つ、今後に向けてのお願いですけれども、こういった形でいじめ総合対策を取ってどのような変化が見られるのかを是非モニタリング評価をしていただきたいです。

これは国でもいつもやっていることではありますけれども、いじめのデータは本当に特徴的で、新しい定義をするたびにいじめの件数が増えて、でも、それによっていじめの件数が増えるのが悪いことではなくて、これもいじめなのだ、このようなところに気を付けなければいけないのだということが、むしろ件数が増えることでみんなが認識をして、対策を取っていく中で徐々に減り、またいじめの新たな定義が生まれて、また気付いてという、アップダウンを繰り返すのがいじめの統計データにいつも見られるところです。是非、現場をできるだけ反映するデータを、ですから件数の多いことが悪いのではなく、しっかりと現場を把握する目的でもって、しっかりとモニタリング評価をしていきながら、こういった対策がどのくらい効果を発揮するのか、またどこに課題があるのかを是非見ていっていただきたいなというお願いです。よろしく申し上げます。

【指導推進担当部長】 御案内のとおり、国が行っている問題行動等調査のデータを毎年私どもも取っているのですけれども、これまでの継続にはなりますが、やはりデータ一つ一つをしっかりと見ていくことが大事なのかなと思います。北村委員がおっしゃっていただいたとおり、いじめの認知件数が増えることは決して悪いことではないと私どもも認識しています。教員の感度が上がるということがとてもいじめの未然防止や早期対応には重要だと思いますので、このデータをまず見ていきたいということ、それから、こうしたいじめ総合対策を学校現場に対して発信して、実際に学校の例えば校長先生方や先生方から、実際に今どのような状況なのかも、私ども職員がアンテナを高くして聞きながら、こうしたいじめ対策を進めていくべきと考えていますので、引き続き尽力してまいりたいと思います。

【宮原委員】 御説明ありがとうございます。これからパブコメなどを聞かれて、またブラッシュアップされるということなので、二つほど質問なのですが、一つ目が、最初に申し上げますと、いじめ総合対策の子供版ができたというのはすごく良い取組だと思っていて、こちらの活用方法もお伺いしたいのですが、高校生いじめ防止協議会に昨年取り組んでいただいて、大変良い議論を生徒たちがやられたかなと思うのですが、令和7年度以降これの取組をどのように考えておられるのかが一つ目の質問です。

二つ目が、いじめ総合対策の子供版を3種類、それぞれの学年若しくは発達段階に合わせてお示しをした後に、どのような活用がされることを想定されているのかという、この二つを教えてくださいませんか。

【指導推進担当部長】 まず1点目の高校生いじめ防止協議会ですけれども、こちらは以前報告をさせていただいた時にも、委員の皆様からも是非いい取組なのでと御評価いただいています。ですから、私どもとしても、やはり子供たちが当事者意識を持ちながらこういった問題に対峙していくことが大事だと考えていますので、その一つの象徴的な取組と考えています。ですから、次年度も是非続けたいと思っていますところでは。

それから、2点目の子供版の活用ですけれども、これは三つそれぞれ学年等に応じて作りましたが、基本的には子供たちに配りっ放しは絶対に避けたいなと思っていま

す。例えば、学級指導の中で、先生方がしっかり子供たちに具体的なページを示しながらみんなで確認する、それから例えば道徳の授業等でも、直接いじめという言葉は出なくても、いじめ等につながる行動を扱った教材もありますので、その教材を扱った先の発展的なものとして、こういったものも副教材として活用しながら、みんなで確認することがとても大事なのかなと思います。こうした活用については、学校の先生方の一助になるように、配布する時には活用方法なども通知の中で案内していきたいと考えているところです。

【宮原委員】 ありがとうございます。高校生いじめ防止協議会については次年度も取り組む予定ということで、大変いい取組だなと思いますので、是非発展的に、どのような形でももう少し広がりを見せた取組がされるかは、御検討いただきたいと思います。いじめ総合対策子供版については、活用をどのようにしていったらいいのかも含めまして、少し丁寧に周知をしていただければと思いました。ありがとうございました。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 このいじめ総合対策で、この子供版を作っていただいてありがとうございます。子供たち、例えば小学生だと、押される、いじられる、からかわれる、そのようなことを相談の言葉として言います。そうした場合に、大人は子供たちがじゃれ合っただけです、たまたまぶつかったのですと説明することもあります。いじめの定義、子供版の初級編に、受けた子供が嫌な思いをした場合がいじめとなるとの記載がとても私は大事だと思っていて、これが現場に十分周知されることが必要だと思っています。そして、子供が嫌な思いをした時に、どう対応したらいいかということも子供版で是非作っていただきたいと思います。

【指導推進担当部長】 今お話しいただいたように、いじめの定義など、そういったところはこれまでも各学校では指導してきているところです。ただし、みんなが一緒に確認するよりどころとなるものがこれまで割と曖昧となっていた部分がありますので、それをはっきりさせることで、学校の先生方も指導がしやすくなるのではないかと考えているところです。それから、相談についても、ページを設けていますので、

相談すると、まず先生方が一生懸命考えてくれるよ、こういった相談機関があるよ、など、そういったところもページも割いていますので、そういったところも是非子供たちに案内していきたいと思います。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

高橋委員、お願いします。

【高橋委員】 非常に分かりやすい、いろいろな資料ができたのではないかなと思っています。私も、特にこの子供版の上級編に関しては、この後教師を目指す学生にとっても非常に分かりやすく、貴重な資料になるかなと、まだ理解し切れていない学生もたくさんいるのではないかなと思うと同時に、先生も実はこれを読んだ方が分かりやすいこともあるかもしれないと感じました。また、生徒指導提要に関しても、非常に充実していますが、これは今、新しくできてきたところもあるので、まだ詳しく理解できていない先生もいらっしゃるのではないかと思うと、こういった資料は非常に重要だなと思っています。

その上で、一つやはりこの子供版が今回非常に特徴的なことだと思いますので、そこについて少しコメントさせていただくと、この初級編・中級編・上級編という名前は少し、いじめの上級編なのかと一瞬思いましたが、対策の上級編なのかなと思います。そこはさておき、やはり先ほど秋山委員もおっしゃったように、嫌な思いは前後の関係が結構影響が強いかと思います。本当に親切のつもりでやったのにと書かれているこの部分も、なかなかこれだけ見て子供にとって言葉狩りのように、逆にこのような声が掛けにくくなることのないようにしていかなければいけないのではないかなと思います。その意味では、今回パブリックコメントで、実際に子供からこのようなものを見た時にどのような受け止めがあるのかという、コメントを丁寧に見ながら修正していくのが重要かなと思っています。

私は以前に YouTube で見たのですが、とある生徒会の人、掃除のシーンか何かで、これはいじめだと分かりますかという動画を作って載せているのがあって、非常に分かりにくいだけでも、本人が嫌な思いをしているので、これはいじめなのだろうという動画がありました。

ヘルメットの啓発動画ではないですが、そのようなものを生徒会や生徒の皆

さんに作っていただいて、具体的に前後の関係を含めて考えていただくことも次なるやり方としてあり得るかなと感じたところです。

以上です。

【指導推進担当部長】 確かに、子供版に記載した内容だけをもってして、誰々君が100%悪いと判断されるのは少し違うかなと思っています。当然、その前後の経緯など、いろいろな状況を踏まえながら、学校の先生方がしっかり認識して捉えていくことがとても大事なのかなと思います。今回こういった形で示したのは、当然今まで行為を受けているのだけれども、内に秘めてなかなか言えないという子供たちが相当数いたと思います。ですから、そういった子たちをまず拾い上げてあげよう、言いやすくしてあげようというのが、一つ私たちの思いとしてあります。おっしゃったように、こうしたものを子供たちに見せて、子供たちがどのような反応をするのか、是非子供たちのコメントはとても重視していきたいと思っていますところです。

それから、先般の自転車ヘルメットの動画のように、高校生や中学生など、生徒がこうしたものをどのように実行していくかは、先ほど御案内いただいたいじめ防止協議会の取組もありますので、そうしたものを使いながら、子供たちにもどのようなことができるかは発信してまいりたいと思っています。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

萩原委員、お願いします。

【萩原委員】 非常に分かりやすい資料でした。ありがとうございます。いじめについての定義付けや、犯罪になることも提示できたことはすごく大きいなと思っています。それでも、いじめはなくならなくて、残念です。これからパブコメも入ってきてブラッシュアップされていくとは思いますが、完成したものに関して、子供や指導者はもちろん、やはり保護者にも積極的に共有していただきたいなと思います。この資料を基に各学校の保護者への説明会であったり、研修会などでも使用してもらえるように働きかけていただきたいと思っています。やはり保護者の力もとても大きいと思うので、よろしくお願いします。

以上です。

【指導推進担当部長】 保護者向けということであると、まず、今ほとんどの学校

で、それぞれの学校でいじめ防止をどのように方針を決めてやっているかを、ホームページや保護者会等で案内していただいています。ですから、そうした機会にも、このいじめ総合対策も併せて保護者にも周知をしていただくように、学校にも依頼したいなと思っています。それから、教育委員会のホームページにも案内させていただくと先ほどお伝えしたところではあるのですが、やはりパブコメも通じまして、こうしたことを私どもが取り組んでいることは、広く一般都民にも周知を図ってまいりたいと思います。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ほかに御質問・御意見がありませんようですので、本件につきましては報告として承りました。

(2) 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」の改訂について

【教育長】 それでは、報告事項(2)「「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」の改訂について」の説明を、指導推進担当部長からお願いします。

【指導推進担当部長】 報告資料の(2)を御覧ください。学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画の改訂につきまして説明させていただきたいと思えます。

本計画ですが、学校部活動の地域連携・地域移行について、国が定めた令和5年度から7年度までの改革推進期間における取組の展望を明らかにし、休日等における取組を推進することを目的としたものでして、令和5年3月に策定をしました。その後、昨年3月に一部改訂を行っています。このたび、今年度の取組、それから各地区の状況等を踏まえまして、令和7年度に向けて更に改訂を行いたいと考えています。本日は概要について説明します。

資料の中で、赤色の文字で示した箇所が今回改訂した箇所です。資料の3 現状と課題を御覧ください。今年度実施しました部活動改革のアンケートの結果や、全ての地区で地域連携等に関する計画等が策定されたことなどを踏まえまして内容を更新いたします。

続きまして、資料の下段にあります都の取組についてです。こちらは、まずこのページで（１）としまして、区市町村における地域連携・地域移行に向けた都の取組があります。こちらについては、引き続き次年度も実施してまいります。

それから、次のページにまいります。（２）都立学校における地域連携・地域移行に向けた都の取組につきましても、こちらも引き続き行ってまいります。

新しく加えたのが、（３）（４）です。まず、（３）ですけれども、令和７年度新たにスポーツ団体等と連携した地域クラブ活動の創出、それから地域移行等に協力できる企業等の実態調査を実施します。こちらは、二つの取組を一つの文章にしているのですけれども、まず前半の部分です。地域クラブ活動の創出の部分ですが、東京都が地域クラブの設置・運営を民間企業等に委託しまして、スポーツ団体等と連携した地域クラブ活動を作り出します。こうすることで、区市町村の地域移行を段階的に後押しする取組を行います。令和７年度はサッカーの地域クラブを１地区において実施する予定です。

続いて、この文の後半の部分です。実態調査の部分ですけれども、この取組は都内の様々な民間企業等が部活動の地域連携・地域移行にどのような協力ができるのかを調査しまして、データベース化することで区市町村の取組を後押しするといったものです。

それから、新たに加えたものの２項目目になりますけれども、（４）休日における多様な体験活動プログラム（*Youth Activities in Tokyo*）も新たに実施します。この事業ですが、生徒が一つの種目を追求する、あるいは多くの種目を体験するなど、多様なニーズに応えられるよう、休日に個人単位で参加できる体験活動の場を設定します。令和７年度は、都立中学校の生徒を対象にしまして、ボルダリングや軽音楽など、６種目をモデル的に実施します。それぞれ年間を通じて20回程度、学校の枠を超えて、希望に応じて複数の種目に参加できるようにしたいと考えています。

続きまして、少し飛びますけれども、資料下段 7 地域連携・地域移行に係る成果指標です。部活動改革のアンケートにおいて、今年度から生徒対象アンケートに設定した質問に、希望する種目や分野の活動が地域クラブ活動としてある場合、参加した

いかといったものがあるのですけれども、この結果を今後、地域移行に係る指標として活用してまいりたいと考えているところです。

説明は以上です。どうぞよろしく申し上げます。

【教育長】 ただいまの説明に対して、何か御質問・御意見はありませんか。

高橋委員、お願いします。

【高橋委員】 コメントですが、地域連携・地域移行ということで、ある意味一つのやり方としてはお祭りのような存在もあるのかなと感じています。例えば、今までは学校を卒業したらスポーツや文化活動をやめてしまうことがあったかもしれませんが、地域に移行することで、生涯にわたってスポーツや文化に親しむきっかけになる側面もあればいいのかなと思っていることが1点です。

もう一つは、既に地域のいろいろな民間スポーツ団体に入っている子供が、競技団体にもよると思うのですけれども、大会に出ても民間のスポーツ団体に参加している場合は記録として認めないというか、参考程度だということで、部活に出ている人だけが賞状をもらうような競技団体もあると伺っていますので、今後このようになってくると、学校で部活動をやっているのか、地域のスポーツクラブでやっているのかという区別がなくなっていくのかなと思っていますので、そのような移行を速やかに進めていくことが重要なのではないかなと感じています。

以上です。

【指導推進担当部長】 まず1点目ですが、お話しいただいたとおりでして、これまで多くの学生がそうだったかもしれないのですけれども、例えば学校にいる間は部活動に熱心になる、ただその後はなかなかその機会がないというのが残念なところで、日本の社会の中では結構あるのかなと認識しているところですが、この地域移行をきっかけに、生涯スポーツや文化芸術に親しむいい機会なのかなと思っていますので、そういった意味でも推進してまいりたいと思います。

それから、大会への参加についても、大分競技団体の認識も変わってまいりましたので、これからは学校単位だけではなくて、スポーツ団体でも、という機運が更に進んでいくのではないかなと期待しているところです。

【教育長】 萩原委員、お願いします。

【萩原委員】 御説明ありがとうございました。（４）の休日における多様な体験活動プログラム（Y o u t h A c t i v i t i e s i n T o k y o）は、素晴らしいと思います。私はこの考え方が今後、本当に部活動の地域移行の大きな鍵になるのではないかなと感じています。やはり、休日の地域移行を確立してからだと思うので、現時点では休日はそれぞれが好きな競技や文化活動に自由に参加選択できる環境をポジティブに考えていくのはすごく良いことだと思っていて、それを平日に生かす形になっていくのかなと思っています。本格的にやっている部活動の中で、どうしてもメンバーに選ばれなかったり、レギュラーに選ばれなかったり、この部活動は合わないと感じている子供たちも中にはいて、気分転換したいな、ほかの競技や文化活動も参加してみたいなという子供も実際にいるので、すごくいいプログラムになるのではないかなと思っています。その中で本格的に活動している部活動ですと、指導者や仲間から休日に何でほかの競技をやるの、ほかの活動をなぜやるのといった圧力等が掛かることがないようにしてもらいたいなと思っています。というのも、どうしてもそれぞれの活動で、やはり子供を囲ってしまう雰囲気はあるので、子供たちが安心・安全に選択できる環境を整えると同時に、指導者にも子供にもこのプログラムの趣旨説明をしっかり行っていく必要があるのかなと思います。

1点質問ですけれども、先ほどボルダリングを含めて6種目というお話があったと思いますが、その中には文化活動等も入っているのでしょうか。教えていただけたらと思います。

以上です。

【指導推進担当部長】 このY o u t h A c t i v i t i e s i n T o k y o は、萩原委員がおっしゃったとおり、部活動以外にも参加したい子供たちがかなりいることが分かりましたので、いろいろな体験の機会という意味では、様々な活動をする場面をつくって、子供たちが選択できるようにしていくことが大事なかなと思っています。まず次年度、試行的に始めたいと思っています。

種目ですけれども、先ほど2種目案内しましたが、6種目今検討しているのが、ダンス、スケートボード、ボウリング、eスポーツ、ボルダリング、軽音楽と考えています。ですから、一般的に言うと軽音楽が文化的な部活動に類するものになるのかな

と思っているところです。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 御説明ありがとうございました。網羅的に東京都は積極的に進めていただいていると思います。二つコメントというか質問ですけれども、一つは先ほど萩原委員もおっしゃったのですが、文化芸術活動の領域で、スポーツに比べて同じぐらいのスピードで進んでいるのか、それとも苦戦をする状況なのか、東京都はあまりそのようなことはないかなと思いますが、その辺りの進み具合についてどのような状況なのか教えていただきたいのが一つ目です。

二つ目は、スポーツであっても、文化芸術活動であっても、どうしても難しい種目が出てくるのではないかなと思います。その辺りは今後どのように調査をされていくのかについてもお教えてください。

【指導推進担当部長】 まず1点目の、文化芸術の領域の地域移行の進捗ですけれども、そちらについては、元々スポーツ系の部活動に比べまして、文化芸術の部活動は、吹奏楽や合唱など、一部の学校の一部の部活動は大変熱心に、ほぼほぼ毎日活動している状況にあるのですけれども、それ以外の部活動の多くは、スポーツ系に比べますと活動がそもそも少ないところがあります。ですから、そういったところに関しては、まず地域移行や地域連携という形ではなくて、先生方が今、学校の中で無理のない形で進めていただいているので、優先順位としては、やはりスポーツにまず先に各自治体は取り組んでいるのかなと思っています。しかしながら、吹奏楽についても、例えば私ども都立中学校、都立高校で、モデル的な取組をしているのですけれども、その中でも吹奏楽の活動を地域の民間などに委託できないかというところもやってみまして、それは都立高校の例で申し上げますと、かなり学校の先生方からは好評です。生徒からも専門的な指導が行われて非常にいいという評価をもらっています。ですから、なかなか文化系の中で、特に吹奏楽は移行が難しいと言われているのですが、ただ、やり方を工夫すれば変えることはできるのかなと認識しているところです。

それから、2点目のスポーツ・文化芸術、今の部活動の中でなかなか地域移行が難しいものも当然あるというお話ですけれども、これはなかなか学校によっても実情が

違いまして、様々な課題があります。ただ、子供たちにとっていい形に持っていきたいというのが一つと、もう一つは、教員が働き方改革を進めるところが私どもは大きな狙いがありますので、そうした2点目の働き方改革という点で言えば、学校の部活動は続けたとしても、部活動指導員や外部指導者など、地域の方の力をどのように活用するかが重要と考えていますので、そうしたところでまず進めていきたいと思っています。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

北村委員、お願いします。

【北村委員】 御説明ありがとうございます。非常に大切な取組で、積極的に都としても進めていただいていることを感謝申し上げます。

1点質問というか、お願いに近いのかなと思いますが、学校ごとに差があるというお話も今ありましたけれども、やはりこれは地域によって、特に中学校で考えた時に、区市町村の中での地域間格差があるかなと想像できます。その辺りをしっかりと把握していただいて、十分にスムーズに移行できているところはいいのですけれども、なかなか企業やスポーツ団体等の連携が難しい地域であれば、是非そういったところ、また少しここも難しさがあるのですけれども、謝金の上乗せの話も区市町村によって、昔聞いた時には差があったのですが、今はどうなっているのか分かりませんが、区によっては少し多めに出したりする区も伺ったことがあります。この辺りの地域間の格差をどのように消して、それを下げろという話ではなく、底上げしながらサポートしていくって、必要などころに必要な支援をより手厚くしていくことも必要かなと思いますので、そういったことを御検討いただきたいなということがお願いです。

これは今回の計画の改訂というよりは、そのうちということの一つコメントだけさせていただきたいと思いますと思うのですが、先日ニュースになったりして、最近全国的に学校での体育における水泳の指導をやめる学校がすごく増えているという話がありまして、もちろん子供たちがあまり肌を見せたくないというのもあつたりするのですが、先生方がやはり指導が難しいという、安全を確保しながらどれだけやっていくかというところで、だったら学校ではやめようという話も出ているのかなというのを見たりすると、こういった地域連携が進んでいった中で、地域のスポーツ団体と連携していき、

そこで例えば将来的に水泳部の指導をしてくださっていた指導者の方が学校の体育の授業をお手伝いいただくなど、それは別に水泳に限らずどのような種目、あるいは文化活動でもいいのですけれども、地域と本当に連携していく、部活動に限らず学校教育全体が地域と連携していく一つのこれもきっかけになっていくといいなと考えたりしています。この辺りは別に今回どうこうということではないのですけれども、是非そういったことも可能性としてあるのかなと見ていただいて、何か良いグッドプラクティスがあれば、それを是非情報共有していただいて、ほかの学校の参考にもなればいいなという、これはコメントです。

【指導推進担当部長】 前半にお話しいただいた、いわゆる地域間格差に係る内容ですけれども、もう既に御案内のとおり、様々なメニューを用意して、区市町村に対して支援をしていますので、こちらについては各区市町村がしっかり取り組めるように継続してまいりたいと思っています。

それから、地域移行に関して、これも地域の取組、自治体によっての取組の差がかなりあります。そのまずヒントとなるかなというところで、資料の（３）の地域クラブ活動の創出というのは、なかなか自治体の力だけでは地域クラブを立ち上げたり、関係性を持って新しい取組が踏み出せないという自治体も多くありますので、私どもでまずそのお手伝いを３年間でやりたいです。実際にやってみて、その成果やいろいろな形が見えてくると思いますので、それをいろいろな自治体にまたフィードバックすることで、今取組に悩んでいる自治体の一助になるのかなというところでモデル的にやりたいです。

それから、最後にお話しいただいた地域と連携ということは、この部活動の件ももちろんですけれども、学校教育の中で子供たちにとっていい形、水泳もそうですけれども、いい形を続けるためには、やはり学校の力だけでは難しい状況になっていると思いますので、様々な形で地域の方のお力を頂きながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 御説明ありがとうございました。今、質問に対してお答えされた中

に、地域連携・地域移行のメリットを幾つか話されました。

例えば、子供たちに専門性のある方を紹介できる、教師の働き方にいいなど、そのようなメリットを推進目標の中に成果として入れて、先生方が休日に働かなくていいだけではないことを次の改訂の時に推進目標に入れていただきたいと思います。

【指導推進担当部長】 私どもも、地域連携・地域移行のメリットをPRすることはとても大事と考えていますので、頂いた御意見を踏まえまして、今後いろいろな形で広めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ほかに御質問・御意見がありませんようですので、本件につきましては報告として承りました。

参 考 日 程

(1) 教育委員会定例会の開催

4月10日(木) 午前10時

教育委員会室

【教育長】 次に今後の日程について、教育政策課長からお願いします。

【教育政策課長】 次回の定例会は、4月10日午前10時から、教育委員会室にて開催したいと思います。

【教育長】 ただいま説明がありましたとおり、次回の定例会については、4月10日木曜日午前10時から開催したいと思います。—— 〈異議なし〉 ——

日程そのほか、何かありませんか。

それでは、これから非公開の審議に入ります。

(午前11時25分)